

忘れえぬ人々

チュチェ思想国際研究所の創立に献身

安井 郁 初代理事長



生涯求めてやまなかった真理を金日成主席、チュチェ思想に見出す

「自分が生きている時代に金日成主席のようなすぐれた偉大な思想家、理論家が存在するのは、真理の探究に苦闘する科学者たる自分にとってまたとない幸福である」

(第5回チュチェ思想科学セミナー全国集会にて 1974年10月東京)

病身をおしてチュチェ思想国際研究所の創立に全力をかたむける

「もし委員長の重い責任を果たせないうちに、わたしの手からたたかひのペンが落ちる日がきても、同志、友人たちがすぐにかけてよってそのペンを拾い上げ、たたかひを続けてくれるにちがいない」

(チュチェ思想に関する国際的常設機構の組織委員長就任後に開催された第10回チュチェ思想科学討論全国集会にて 1977年11月20日東京)

チュチェ思想の研究普及が代を継いでおこなわれることを確信して詠んだ短歌

「一生かけて抱きつづけしこの夢を わが若きらに託し目守らむ」

(1977年9月 ピョンヤン)

チュチェのひとすじ道を歩んだ生涯 ビシュワナス チュチェ思想国際研究所名誉理事長



チュチェ思想研究普及の誇りと使命を胸に

「10年後、チュチェ思想国際研究所の創立40周年を迎えるときには、ここにいる内の何人かの人々がこの席にはもういないかもしれません。しかし、わたしたちはみな、自分のいた席に自分の息子や孫を、親しい親戚を立たせ、ひいては一つの村、一つの職場が丸ごとチュチェ思想に学ぶ集団になるよう努力しなければならず、わたしたちに代わる新しい世代がチュチェ思想の研究普及活動において、自分たちの世代よりもっと多くの成果をおさめるよう積極的に導き、後押ししなければなりません。

わたしたちがチュチェ思想を熱心に研究し学習するのは、一つの思想、一つの学説としてのチュチェ思想の学問的な真理性を確認するところにあるのではなく、そこにこめられている真理を具現して自国と自民族の自主的な発展と繁栄を実現し、社会を変革していくところに目的があります。わたしたちがチュチェ思想の研究と具現のための活動をりっぱにおこない、自国と自民族の発展において新しい高い地平がもたらされるならば、それはすなわちチュチェ思想の正当性と生活力を世界の他の国と地域でいま一度確認する、歴史的な出来事になるでしょう」

(チュチェ思想国際研究所創立30周年記念報告会にて 2008年3月23日ニューデリー)